

令和5年度第1回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和5年7月3日（月）10時05分～12時00分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員出席6名（欠席3名田村康樹委員、齋藤誠司委員、赤塚貴史委員）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、田村武委員、山口孝委員、関晴恵委員、熊谷稔委員、新田育夫委員

【滝沢市】

滝沢市長 武田哲

上下水道部 部長 及川竜悦

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 高橋竜也

下水道課 課長 村上斉、総括主査 黒澤滋、副主幹 伊藤圭晃、主任 高山隼輔

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事

（1）議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に関晴恵委員、新田育夫委員を指名した。

（2）報告事項

以下①～⑤の報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

① 滝沢市下水道事業経営戦略と汚水処理施設概成アクションプラン振り返りと見直しについて（下水道資料1）

② 経営比較分析表（令和3年度決算）について（下水道資料2）

③ 収益的収支および資本的収支令和3年度決算比較について（下水道資料3、4）

④ アセットマネジメント運用計画図について（下水道資料5）

⑤ 北上川上流流域下水道（都南処理区）の市町の公営企業に係る経営比較分析表（令和3年度決算）について（下水道資料6）

【山田委員】下水道事業は汚水を集めて処理していくものだけではなく、雨水排除等の水害対策に係る事業も含まれるが、雨水排除の整備に関わる情報はるか。

【下水道課長】現在行っているものは、以前、大釜地区で内水氾濫があり、昨年度、

国道46号を横断し雫石川に流せる形体のものを作って、終えたところ。今年度はその先を設計し、その後、工事をしていく形。その他については、河川改修や一部改修により、最近、あまり氾濫というものがなくなってきている。今後は内水氾濫について、どれくらい検討していくかということが、今後の下水道雨水について出てくることかと思う。

【山田委員】何か計画的に数値を決めて進めているということではないということでしょうか。

【下水道課長】新しい開発などでは、調整池などでリスクを回避する仕組みがあり、宅地などの雨水の排水計画により、リスクを減らす計画を作らせるようにしている。

【山田委員】大雨についてなど、市民の方々にとっては関心の高い部分だと思う。

【熊谷委員】17ページに現在処理区域内人口というものがあるが、13ページでは、市街地における整備は概ね完了していると捉えるとある。私の所は下水道が整備されていないので、市全体としての下水道普及について、どのように考えているか。

【下水道課長】次の経営戦略の見直しなどでは、検討しなくてはいけないところ。生活雑排水または汚水が、どのように処理すべきかという方向付けかと思う。下水をつなげるといえるものでは、ある程度の人口密度なり、区域としてまとめたものとしている。下水道で行うのか、個別合併処理浄化槽では補助金を出している中で、その中で行っていくのかという、すみ分けがはっきりしてこないといけないもの。今後は見直しをかけ、個別合併処理浄化槽で行いますという地域、下水道で行いますという地域をはっきりとさせていく必要があると考えている。また、都市計画の中で市街化区域というものがある。下水道の整備は市街化区域で行われるもので、市街化調整区域は、整備できる状況なのかということにかかってくることから、きちんとした受益、面積が拾えないことから、そういったところを検討しながら、下水道区域がどうなっていくのかということを検討していかなければならないと考える。ある程度いくと下水道は経営が成り立たなくなることから、個別合併処理浄化槽で処理を行ったほうが、経費がかからないことから、その形でお願いしていくと思う。

【下水道課総括主査】資料送付一覧のNo.12参考資料「北上川上流流域関連滝沢公共下水道事業計画」を事前に送付しているが、この中に、縮小版A3版の図面が添付となっている滝沢公共下水道事業計画計画一般図（汚水）について、説明させていただきたい。昨年度、令和4年度に事業計画の変更をさせていただいた。変更を行ったのは、いずみ巣子ニュータウン、盛岡農業高校、市役所前の中心拠点地域という形で、主だったこの3か所の変更をしている。これは、令和3年度末に滝沢市の都市計画区域、いわゆる市街化区域の編入に合わせて、中心拠点地域を設定しているもの。いずみ巣子ニュータウンについては、今後、時間的なものとかまとまれば、公共下水道に組み入れることが可能である。盛岡農業高校については南側部分となるが、北側は畑などとなるので、校舎側に

ついて下水道としていくということについて、令和4年度に変更をかけさせていただいた。只今、熊谷委員からお話があったその他の地域について、下水道としての在り方とすれば、岩手県の全体計画の中に滝沢市の全体計画、さらにその中に事業計画という絞り込みがされている。滝沢市の全体計画は図の黒い枠となるが、主だった住宅地とかが密集しているところ、下水道として成り立つことができるという考え方で、整備が終わっているところがグレーとなり、主だった市街地は整備できているが、計画としては枠をとってあるもの。ただし、今後、国から整備を終えなさいと言われていた令和8年度までに、具体的に整備ができるかとなれば、費用対効果や人口減少などがあることから、見直しをかけていく形となる。全体計画として、外さなければいけないと考えているが、この全体計画の外枠については、岩手県も影響があるので、今時点では、令和8年度まで整備しなさいよという中では、滝沢市の全体計画を変更しないで、実際にできるかどうかということで、市役所前の中心拠点や盛岡農業高校は、今回整備できますということで、区域に設定したもの。市の全体計画については、見込みがあるかということは置いておいて枠を残しているものであるが、今後、人口減少が加速し、空き家や空き地が増えていくということになれば、見込みがない地域を残していくことは難しい問題かと思う。令和8年以降、未整備のところは変更せざるをえないという流れになると考えている。

【熊谷委員】雨水と汚水があるが、22ページ、不明水というものについては何か。

【下水道課長】汚水量は、水道で使用した使用量とほぼ同じになるはずのものであるが、何らかの原因、よくある例として、マンホールの隙間から雨水が入ってきて、下水の水量が増えたものが不明水というものになる。これがないとよろしいが、どうしても老朽した箇所などから、下水に不明水が入ってしまうので、これを解消するのが重要であると考えている。

【山田委員】今、話があった不明水の問題と前回、経営戦略の見直しにあたって、接続率についての提言があったが、今回、料金の見直しをせざる負えないという状況であるとは認識しているが、かといって、課題の積み残しとかがあるということは、経営改善がされていないということになるので、前回から引き続き課題として出している部分について、どのように解消していくか、見直ししていくのか、その辺のロードマップみたいなものを検討することがいいかと思う。

【下水道課長】様々な課題があるかと思うので、次回の審議会で経営戦略の中に、ある程度、盛り込まれていくのではないかと考えている。

【山田委員】資料1の23ページ、シナリオ3の部分で、費用負担を平準化するためのアイデアとして、工事を実施しなくてもよい時期に、積み上げていくのは良いアイデアとは思いますが、ただ、耐用年数が一律に、管渠の損傷状態が同じとは限らないので、先ほど、幹線の重要な視点についても話していただいたけれども、優先度の高い幹線に関わる管渠の工事が、こういった年次から始まっていくのかということも、別途、示したほうがよい。

- 【下水道課長】具体的な内容となる、アセットマネジメントとストックマネジメントを両方、併せたものを作る形となるので、検討しますが、いずれ機能に沿った優先度の高い路線でやっていくのが当たり前であり、その計算によって、ストックマネジメントで示されているので、ランニングの試算というものも、もちろん必要かと思う。審議会の中で、示させていただきたい。
- 【山田委員】アセットマネジメントも22ページに、この表のイメージと分かっているものがあるが、管渠が埋まっている道路等の使用頻度、交通量の多いところ、あるいは管路が接続されているところは、どうしても傷みやすいかと思うので、そういったところが、どういう経費、もしかしたら、耐用年数以前に修繕が発生してくる可能性についても頭の隅に入れておかなければならないと思う。情報が整理できれば、提供いただきたい。
- 【下水道課長】検討します。
- 【山田委員】それにより、前倒して積み上げていくところとか、削られてくるところとかが当然、発生してくるので、その辺のずれが修正されているのかを考えている。
- 【田村委員】話を聞いていると、もの凄い壮大な課題のような気がする。今の下水の本管などをどのように維持していくか。やっていかなくてもどうなるのか。新しく整備ということは、将来的にも難しい気がするし、他の部署とも連携してやっていかなければならないと感じる。先ほど熊谷委員からあった、入っていない所もちろんあるので、そういう方々の所を無視しろというわけではないが、そうは言っても、予算や人口減少を考えるとやれない気がするので、逆に、今入っているところに移住してもらおうというのもおかしいが、住民がある程度集約して、30年とか100年先となると、すみ分けをしながらやっていかなければ、事業となると、人口が減っていったときに、下水道などはやっていけなくなるのではないかと。感想になるが、これからのことを含めて、計画を練っていく必要があるときに、やはり下水道だけの問題だけではなくて、市全体としての取り組みを含めて計画を作っていくと思うが、そのようにやっていかなくてもいけないのではないかと感じる。
- 【山田委員】何年前かに、都市計画のビジョン、マスタープランが出されて、その時、コンパクトシティ化についての言及があったかと思うが、それが今回、経営戦略について、何か連動していくものはあるか。
- 【下水道課長】現実的にコンパクトシティというものの自体に対して、滝沢市の都市計画マスタープランで、具体的にどういう都市計画を目指していくかという具体案は出ていない。逆線引きというものの、市街化区域を市街化調整区域に替えてしまうという、人口密度の低いところというやり方もあって、その類についてはできるものの、実際にどういった方法で行うかと将来的には出てくるものかと思う。ただ、コンパクトシティというものの自体がどうあるべきかと、はっきり見据えてきていないというものもあろうかと思う。東北地方整備局のコンパクトシティ研究会というもので、最初にコンパクトシティとは、小さけれ

ばというものではないという結論があり、衣食住と働き場所などが、一つの場所でコンパクトとなっているものとなり、様々なコンパクトの在り方というものをまだ模索している段階であるので、滝沢市のコンパクトシティが今後どうなっていくか、次のマスタープランあたりで出てくると思う。

【山田委員】それを基に今、経営戦略を作る。下水道の計画を作る。先行して今後、下水道経営を考えたときに、このようなコンパクトの在り方が、例えば大事なものではないかとか、何か、街の形、市の都市づくりというのが、下水道を基本とするのではないとしても、ある程度、確保し、線引きしていかないと、いつまでたっても拡張路線ではいけない。ましてや、今回の経営戦略にはある程度、市街化調整区域を整備するかという現実的な話があるかと思う。そこは下水道の計画から初めてしまうというくらい意思表示をしてもらえば、聞いている方は分かりやすい。計画を理解する上で、分かりやすいと言うか、それだけの線引きをしてから、それに係る負担・費用という形でのものが、市民にとっても理解しやすいかと思う。例えば、全体的な無駄を省いていきたいと思いますという、その辺も検討願う。

【熊谷委員】市街化調整区域で住宅地として分譲を許可するが、団地の取り扱いとしてとか、市街化調整区域の網がかかっているから、初めてその土地を購入した人以外の人、その所に建物を建てられないということか。

【下水道課長】市街化調整区域の建築許可というものについては、何種類かがある。その種類によって人なのか、建物に許可がついているのかによって変わるので、一つひとつの建物それぞれに、人ではなければ建てられない、建てた本人でなければ建てれない、建てた建物と同じようなものとしているかなど、一概にどうとは言えない。

【熊谷委員】私が住んでいる近所に空き地があるが、10、20年ぐらい前に別の人が土地を購入して家を建てようとしたら、建てれないということになり、空き地になったままで、住宅地ではあるが雑草だらけとなっている。所有者が亡くなったようで、そのご家族が地方に住んでいるらしく、いまさらそこに住むことはないようで、どうしようもない。これからも、ずっと滝沢市に固定資産税を払っていただけであると聞いている。

【下水道課長】市街化調整区域の制度の現状がある。市街化調整区域をやめるという場合は、都市計画区域を止めるということとなる。都市整備も、一切しないということになる。都市計画区域を止めるということとなると、相当、大きな痛手となる。都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に分けているので、市街化調整区域を無くすということは、都市計画区域を無くすということとなる。全てを市街化区域または市街化調整区域とするかということになる。土地は制限がある中で、市街化調整区域としての制度の制限があり、しかたがないというものとなる。

【田村委員】例えばどのように影響するのか。

【下水道課長】見直しとしており、新たに第2次を作るというものではないので、

中身の見直し程度とは考えている。その点については、できないであろうと。やろうとしても料金改定は必要であろうかと思っているので、令和8年度までの計画なので、改定としては、来年度に審議いただくことと考えている。

【山田委員】見直しに関する課題がはっきりとしてきたと思いますので、きちんと抽出していただければと考える。

4 その他
特になし。

5 閉会